

安全データシート

フッ化スルフリル

改訂日: 2024-01-29 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名 : フッ化スルフリル
CB番号 : CB0165693
CAS : 2699-79-8
同義語 : フッ化スルフリル

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

推奨されない用途 : なし

会社ID

会社名 : Chemicalbook
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話 : 010-86108875

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

2007/3/15 (環境に対する有害性についてはH18.3.31)、GHS分類マニュアル(H18.2.10 版)を使用

物理化学的危険性

金属腐食性物質 分類できない
有機過酸化物 分類対象外
酸化性固体 分類対象外
酸化性液体 分類対象外
水反応可燃性化学品 分類対象外
自己発熱性化学品 分類対象外
自然発火性固体 分類対象外
自然発火性液体 分類対象外
自己反応性化学品 分類対象外
可燃性固体 分類対象外
引火性液体 分類対象外
高圧ガス 液化ガス
支燃性・酸化性ガス類 区分外
可燃性・引火性エアゾール 分類対象外

可燃性・引火性ガス 区分外

火薬類 分類対象外

健康に対する有害性

吸引性呼吸器有害性 分類対象外

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 区分2(骨・歯 呼吸器 腎臓 中枢神経系)

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分2(呼吸器系)

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分1(中枢神経系)

生殖毒性 分類できない

発がん性 分類できない

生殖細胞変異原性 分類できない

皮膚感作性 分類できない

呼吸器感作性 分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2A-2B

皮膚腐食性・刺激性 区分2

急性毒性(吸入:ミスト) 分類対象外

急性毒性(吸入:粉じん) 分類対象外

急性毒性(吸入:蒸気) 分類対象外

急性毒性(吸入:ガス) 区分3

急性毒性(経皮) 分類できない

急性毒性(経口) 区分3

環境に対する有害性

水生環境慢性有害性 分類できない

水生環境急性有害性 分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル

GHS04	GHS06	GHS08	GHS09

注意喚起語

危険

危険有害性情報

長期又は反復ばく露による呼吸器、骨、歯、腎臓、中枢神経系の障害のおそれ

呼吸器系の障害のおそれ

中枢神経系の障害

強い眼刺激

皮膚刺激

吸入すると有毒

飲み込むと有毒

加圧ガス:熱すると爆発するおそれ

注意書き

適切な保護手袋を着用すること。

適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。

ガスの吸入を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

【廃棄】

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

施錠して保管すること。

日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。

【保管】

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

ばく露した時、又は気分が悪い時は、医師に連絡すること。

ばく露した場合、医師に連絡すること。

眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。

皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぐこと。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

吸入した場合、医師に連絡すること。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

ガスを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

【安全対策】

3. 組成及び成分情報

化学名又は一般名	: フッ化スルフリル
別名	: スルホニルジフルオリド (Sulfonyl difluoride)
分子式(分子量)	: F ₂ O ₂ S (102.05)
CAS番号:	: 2699-79-8
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	: (1)-1152
分類に寄与する不純物及び安定化添加	: データなし
濃度又は濃度範囲	: 1

4. 応急措置

吸入した場合

医師に連絡すること。

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぐこと。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

直ちに医師に連絡すること。

予想される急性症状及び遅発性症状

眼：発赤。

皮膚：液体に触れた場合、凍傷。

吸入：咳、咽頭痛、吐き気、嘔吐、振戦。

最も重要な兆候及び症状

肺水腫の症状は2~3時間経過するまで現われない場合が多く、安静を保たないと悪化する。したがって、安静と経過観察が不可欠である。

空気中の濃度が高いと酸素の欠乏が起こり、意識喪失または死亡の危険を伴う。

応急措置をする者の保護

区域内に入る前に酸素濃度を測定する。

中毒濃度に達していても、臭気として感じないので注意すること。

医師に対する特別注意事項

データなし

5. 火災時の措置

消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状放水

特有の危険有害性

破裂したボンベが飛翔するおそれがある。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。

火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。

損傷したボンベは専門家だけが取り扱う。

漏洩部や安全装置に直接水をかけてはいけない。凍るおそれがある。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

消火作業の際は、空気呼吸器を含め適切な防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

関係者以外の立入りを禁止する。

風上に留まる。

密閉された場所に立入る前に換気する。

作業者は適切な保護具(『8.ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

低地から離れる。

漏洩場所を換気する。

ガスが拡散するまでその区域を立入禁止とする。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

密閉された場所は換気する。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

環境に対する注意事項

環境への放出を避けること。

回収・中和

危険でなければ漏れを止める。

封じ込め及び浄化方法・機材

危険でなければ漏れを止める。

可能ならば、漏洩している容器を回転させ、液体でなく気体が放出するようにする。

容器を冷却して蒸発を抑え、発生した蒸気雲を分散させるため散水を行う。

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

漏洩物又は漏洩源に直接水をかけない。

住居地域及び工業地域の住民に直ちに警告し、危険地域から避難する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

容器は丁寧に取り扱い、衝撃を与えたり、転倒させない。

使用後は、パルプを完全に閉め、口金キャップを取り付け、保護キャップを付ける。

多量に吸入すると、窒息する危険性がある。

眼に入れないこと。

排気用の換気を行うこと。

ガスを吸入しないこと。

皮膚との接触を避けること。

飲み込みを避けること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

眼、皮膚との接触を避けること。

皮膚、粘膜等に触れると、炎症を起こす。

漏洩すると、材料を腐食させる危険性がある。

吸入すると、死亡する危険性がある。

接触回避

データなし

保管

技術的対策

容器は保安上1年以内にご使用の上、速やかに販売事業者へ返却すること(高压ガス保安協会指針)。

混触危険物質

データなし

保管条件

日光から遮断すること。

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

施錠して保管すること。

容器は直射日光や火気を避け、40℃以下の温度で保管すること。

容器包装材料

データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産衛学会(2007年版)

未設定

ACGIH(2007年版)

TWA 2.5mg/m³(Fとして)

設備対策

作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用すること。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	液化ガス
色	無色
臭い	無臭
pH	データなし
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
log Pow = 0.41 (推定値) : PHYSPROP Database (Access on Sep. 2008)	
水 : 750mg/L (25℃) : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)	
4.478g/L : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)	
データなし	
3.5 (空気=1) : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)	

12.75mmHg (21.1) : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)

データなし

不燃性 : ICSC (J) (2001)

データなし

データなし

-55.38℃ : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)

-135.82℃ : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)

融点・凝固点

-135.82℃ : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)

沸点、初留点及び沸騰範囲

-55.38℃ : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)

引火点

データなし

自然発火温度

データなし

燃焼性(固体、ガス)

不燃性 : ICSC (J) (2001)

爆発範囲

データなし

蒸気圧

12.75mmHg (21.1) : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)

蒸気密度

3.5 (空気=1) : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

4.478g/L : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)

溶解度

水 : 750mg/L (25℃) : NITE総合検索 (Access on Sep. 2008)

オクタノール・水分配係数

log Pow = 0.41 (推定値) : PHYSPROP Database (Access on Sep. 2008)

分解温度

データなし

粘度

データなし

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる

危険有害反応可能性

加熱すると分解し、有毒なヒューム(フッ化水素、イオウ酸化物など)を生じる。

避けるべき条件

加熱

混触危険物質

データなし

危険有害な分解生成物

有毒なヒューム(フッ化水素、イオウ酸化物など)

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットのLD50値100 mg/kg(RTECS(2004))から区分3とした。

経皮

データなし

吸入

吸入(ガス): **Priority 1**の情報に記されているラットのLC50値(4時間換算値)は、雄に対して1865ppm、雌に対して1510ppmであり(いずれもACGIH(7th, 2001))、これらのうち毒性の強い値(1510ppm)を採用し区分3とした。

吸入(蒸気): **GHS**の定義におけるガスである。

吸入(粉じん): **GHS**の定義におけるガスである。

吸入(ミスト): **GHS**の定義におけるガスである。

皮膚腐食性・刺激性

皮膚腐食性・刺激性に関するデータはないが、本物質が圧縮液化ガスの状態である場合、その液体に触れることで凍傷を起こすことがある(ICSC(J)(2001), SITTIG (4th, 2002))ため、注意を喚起するためにも区分2とした。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

人の眼に対して刺激性があるとする記述(ACGIH (7th, 2001), SITTIG(4th, 2002), ICSC(J)(2001), HSFS(2000))はあるが、刺激の程度が不明のため区分2A-2Bとした。【表示】細区分を行う必要がある場合は、安全性の観点から区分2Aとするのが望ましい。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性:データなし

生殖細胞変異原性

データなし

発がん性

データなし

生殖毒性

ラットおよびウサギにおいて催奇形性作用は認められなかった(Catalog of Teratogenic Agents, 11th ed.(2004))が、本物質の生殖能への評価を行ったデータはなく、データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性

データがなく分類できない。

水生環境慢性有害性

データがなく分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

IMOの規制に従う。

航空規制情報

輸送禁止

UNNo.

2191

ProperShippingName.

Sulphuryl fluoride

Class

2.3

国内規制

陸上規制情報

毒劇法の規制に従う。

海上規制情報

船舶安全法の規制に従う。

航空規制情報

輸送禁止

特別安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

重量物を上積みしない。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

移送時にイエローカードの保持が必要。

緊急時応急措置指針番号

123

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法

毒物(指定令第1条)(政令番号:24-2)

水質汚濁防止法

有害物質(法第2条、令第2条、排水基準を定める省令第1条)

船舶安全法

高压ガス・毒性高压ガス

高压ガス(危規則第3条危険物告示別表第1)

航空法

高压ガス・毒性高压ガス

輸送禁止(施行規則第194条)

港則法

高圧ガス・毒性高圧ガス

危険物・高圧ガス(法第21条2、則第12条、昭和54告示547別表ニイ)

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法(化審法)<https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)<https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>
pageID=0&request_locale=en

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。